

(学年) 第2学年, (教科・科目) 国語・国語総合

一斉学習

(単元) 唐詩のしらべ「送元二使安西」

(本時のねらい)

歴史的仮名遣いの読み方や訓読のきまりなどの現代文との違いを確認し、繰り返し音読することで、古典ならではのリズムと言葉の響きを味わうとともに、作品に描かれた自然描写や表現された心情について思いをめぐらすことで豊かな人間性を養う契機としたい。

(ICT活用方法)

漢詩を音読するときに詩全体を電子黒板に映し出し、視線を集中させた。また、詩の情景を豊かに想像させるために、地図で地名の位置関係などを確認したり、写真を提示したりする。

(本時の展開)

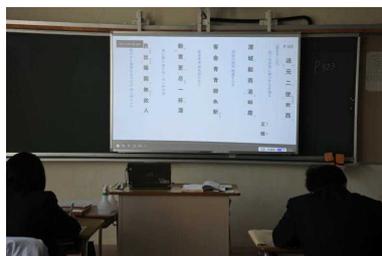
時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 作者について知り、詩の形式と押韻について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 詩の形式と押韻については、前時を振り返りながら進める。 	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> 教師の範読を聞く。 音読をする。 地名の位置関係について知る。 詩の場面を把握する。 詩の情景を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 語句のまとまりや読み方を助言する。 地図や写真などを電子黒板に提示する。 人間関係や作者の置かれた状況を把握させる。 前半の情景描写が送別の場を表していることを理解させる。また、前半が詩全体にどのような効果をもたらしているのか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み方の確認・音読のときに視線を集中させるために、詩全体を電子黒板に映し出す。 詩の中に出てくる地名の位置関係や状況について、画像で提示する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・作者の心情を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話に近い直接話法で、表現している友を送る万感の思いを理解させる。 	
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめと次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩に描かれた世界を振り返らせる。 	

(授業の様子)



(教材投影方法)



(板書とICT)



(学習の様子)

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

読みの確認をしたり，一斉音読をしたりするときに，詩全体を電子黒板に写し出すことにより，視線を集中させて授業を展開することができた。また，電子黒板を使用することで，板書するよりも短時間で提示できるようになり，内容を深めることに多くの時間を使うことができるようになった。さらに，詩に出てくる地名の位置関係を地図上で視覚的に確認することで，詩の状況理解がしやすくなった。

スムーズに授業を進めることができる半面，生徒からは「板書の方がゆっくりと授業が進むので良い」という声もあった。一人一人の理解状況を丁寧に把握し，進め方や展開の仕方を改善していきたい。